

## 聚楽第と秀吉の都市改造

私の中学の頃、多くの同級生が聚楽第のあった区域に住んでいたの、聚楽第というのは、私にとって比較的身近な感じのするところである。私の家からもそう遠くないので、友達を訪ねて行ったこともある。そんなことを思い出しながら、まず聚楽第の紹介をすることとする。



聚楽第の絵図

( <http://kenkaku.la.cocacn.jp/juraku/hukugenzu.htm> による)

聚楽第というのは、上の絵図に示すように、東は大宮通り付近、西は知恵光院通り付近、北は一条通り付近、南は出水通りで囲まれた広大な区域であった。一条通りというのは、

例の戻り橋のある通りで、[中立売\(なかだちゅうり\)通り](#)の少し北にある。[出水通り](#)というのは私の住んでいた家の500mほど北にある通りである。

聚楽第は破壊されてしまったので、今は少しの遺跡が残っているが、碑を見て回っても範囲を知ることができるだけで、ほとんど観光にはならないが、一応観光案内のホームページがあるので、それを紹介しておく。

<http://kenkaku.la.coocan.jp/juraku/annnaizu.htm>

同14年(1586)、秀吉は平安京の大内裏跡である内野を利用して「聚楽第(じゅらくてい)」の建設に着手した。

周辺には武家屋敷、公家屋敷、町家などが整然と区画されて城下町のような景観を呈していた。

同15年(1587)9月、聚楽第に移った秀吉は、翌年4月、室町幕府当時の先例にしたがって、後陽成天皇、正親町上皇らを新装なった聚楽第に招く「聚楽行幸」を実現した。それは、権力者としての地位を内外にしめす絶好の機会であった。

御所の修築も行われた。御所修築は信長時代にもあったが、秀吉のそれは新造ともいえるべき本格的なもので、同17年(1589)から約2年の歳月をかけた結果、御所は面目を一新。聚楽第と御所の偉容は、上京の景観を完全に変えた。

お土居の造成に前後して寺院街の建設も行われた。

市街地も四条室町を中心に四分割して、それぞれに特徴を持たせ、条坊制に基づく平安京の町(120メートル四方)を短冊形に改めた。

秀吉は甥の羽柴秀次に関白職を譲った。翌年、秀次は左大臣にもなり聚楽第に移り住む。秀吉は、文禄4年(1595)7月、秀次の関白並びに左大臣職を剥奪、高野山に追放し、自刃の沙汰を下した。同月28日には聚楽第の破却を命じ、秀次の子女・妻妾などを処断した。かくして、上京に燦然と輝いた聚楽第は完全に取り壊され、その故地は草生い茂る空き地となるのである。

京都の街を大々的かつ計画的に整備した人は、桓武天皇と秀吉だけである。